

列状間伐のすすめ!

列状間伐を有効に活用するために!

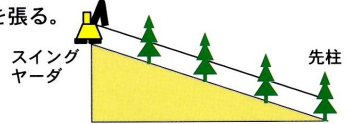
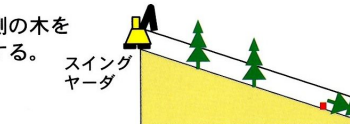


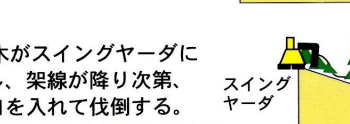
3 残 1 伐の施業例			2 残 1 伐の施業例		
○ 残す木	○ 伐る木	× 伐った木	○ 残す木	○ 伐る木	× 伐った木
初回間伐 伐 残 残 残 伐 残			初回間伐 伐 残 残 伐 残 残		
2回目間伐 残 伐 残 残			2回目間伐 3択3択 3択3択		
3回目間伐 3択 3択 3択					
1. 樹高12m時 3列おきに1列伐採 3,000本/ha植栽の場合 間伐率25%なので ∴間伐後2,250本/ha			1. 樹高12m時 2列おきに1列伐採 3,000本/ha植栽の場合 間伐率33%なので ∴間伐後2,000本/ha		
2. 樹高15m時 残3列の真ん中列伐採 生率本数2,250本/ha 間伐率33%なので ∴間伐後1,500本/ha			2. 樹高15m時 通常の間伐(定性間伐) (3本に1本を抜き伐り) 間伐率33% ∴間伐後1,333本/ha 以降3m伸びる毎に3割間伐		
3. 樹高18m時 通常の間伐(定性間伐) (3本に1本を抜き伐り) 間伐率33% ∴間伐後1,000本/ha 以降3m伸びる毎に3割間伐					

- ※1 列状間伐は、混み入った初期段階の間伐で実施することで、以降の間伐の伐採・搬出線をつくることができます。
- ※2 3残1伐の1回目では、残存列の伐採列側にある不良木を同時に間伐することにより、間伐率30%以上にすることも可能です。

★列状間伐の作業システム例★

(伐倒同時集材と言われる搬出事例です。)

作業手順

- ① 架線を張る。

- ② 先柱側の木を伐倒する。

- ③ 伐倒木を集材する。

- ④ 集材木が次の伐倒木をすぎたら、次の木の受け口を作成する。

- ⑤ 集材木がスイングヤードに到着し、架線が降り次第、追い口を入れて伐倒する。
 ☆必ず架線、アームを降ろしてから追い口・伐倒する。

- ⑥ 上記作業の繰り返し。

★列状間伐の長所と短所★

列状間伐の長所

- ① 掛かり木が少ないため、安全性が高い。
 - ② 選木の技術や手間が不要。
 - ③ 掛かり木が少なく、伐倒効率が低い。
 - ④ 良質木も含まれるため収益も可能。
 - ⑤ 列状に開くため、搬出が容易。
- } 労働生産性が高い。

列状間伐の短所

- ① 残存列には、劣勢木も残る。
 →伐採列を利用して、残存列の劣勢木も搬出。
- ② 地引きの場合、伐採列が集中することによる林床攪乱。
 →地引きの場合は100mを超える伐採列は避ける。
- ③ 密度効果の不均一性。
 →次回間伐までの期間を短縮し、早めに間伐。
- ④ 樹冠が伐採列側に偏る。
 →樹冠の偏りが直接に偏心にはつながらない。